

第4章 知っておきたいこと



～リトルベビーの特徴～

生まれた時の体重が2,500g未満の赤ちゃんを低出生体重児、1,500g未満を極低出生体重児、1,000g未満を超低出生体重児といいます。また、予定日よりも早く生まれ、ママのお腹にいた期間が37週未満の赤ちゃんを、早産児といいます。

感染

ママから十分に抗体をもらっていないため感染に弱い傾向があります

肺

肺が膨らみにくく、呼吸が速かったり酸素や呼吸器が必要になります

血液

黄疸が進行しやすかったり貧血になることがあります



脳

血管にもろい部分があったり血流調整が未熟なことがあります

心臓

心筋が未熟だったり血管の構造が整っていないことがあります

体温

体温調整が未熟で低体温になりやすいです

- 入院中は沢山乗り越える試練がありましたが、今では小さく生まれた事が信じられない程元気いっぱいです！（24週3日、620g・670g出生（双子）、現在4歳）
- よく頑張りましたね。ネガティブな思考で心がしめてしまうかもしれない。子と共に未来をゆっくり進みましょう。（24週、516g・445g出生、現在16歳）

検討会委員協力：沖縄県立中部病院新生児内科副部長 真喜屋智子医師

入院中に起こりやすいこと

小さく早く生まれた赤ちゃんたちは、集中治療のため NICU（新生児集中治療室）に入院します。初めて NICU に入ったとき、機械に囲まれ何本ものチューブやコードがついた赤ちゃんの姿に、驚きショックを受けた方もいるのではないのでしょうか。

NICU では赤ちゃんを守るために最新の機械を使用して治療を行っていますので、アラームの音などで緊張感を感じてしまうかもしれません。危険な状態を脱して、呼吸や循環が安定すると GCU（新生児治療回復室）に移ります。GCU は NICU ほど機械は多くありませんので、ゆったりした環境で面会していただけたと思います。

NICU も GCU も 24 時間体制でスタッフが赤ちゃんを見守っていますので、質問やご希望があれば遠慮なく声をかけてください。

早産児は退院するまでにいくつものハードルを超えなければなりません。ここでは、1,500g 未満の早産児に起こりやすい合併症について記載しています。経過は赤ちゃんごとに異なり、合併症が必ず起こる訳ではありませんので、不安なことやわからないことは医師や看護師に相談することをおすすめします。

1. 呼吸窮迫症候群

肺には肺泡という空気が入る小さな袋があり、肺泡が広がることでガス交換が行われます。肺の中では“サーファクタント”という肺泡を拡げる物質が産生されており、これが不足すると固い風船のように肺が膨らみにくくなります。早産児はサーファクタントが不足して呼吸障害を認めることがあり、この状態を呼吸窮迫症候群といいます。未熟な赤ちゃんほど合併しやすく、気管挿管して人工肺サーファクタントを肺に注入することで症状は改善します。どの週数の赤ちゃんも 3 日ほどすると自分でサーファクタントを作れるようになっていわれています。

気管挿管中の赤ちゃん



- 急な出産で心配でしたが、生まれた時、小さな産声に少し安心したのを覚えています。保育器の中の我が子は、想像以上に小さく、最初は触るのもおそろおそろでしたが、小さな体で懸命に生きる姿を糧に私も頑張ることができ、出産後 1 か月以上待った抱っこをできた日はとても感動しました！（29 週、1,245g・1,309g 出生、現在 1 歳）